

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	ハインツ・ファーターの冠詞論 〈一般〉
Author(s)	竹島, 俊之
Citation	広大言語 , 7 : 31 - 39
Issue Date	1967-12-18
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046269
Right	
Relation	



ハインツ・ファーターの冠詞論

竹 島 俊 之

Heinz Vater Das System der Artikelform im gegenwärtigen Deutsch

この書は現代ドイツ語の体系内に於ける冠詞の役割を調べる事を目的としている。そして共時論、通時論の立場に関して言えば言うまでもなく共時論の立場を取っており、1920年以降に現われた文学作品から例を引いている。更に抒情詩や Telegrammstil (大見出し、本のタイトル、上書きを含む) は排除されている。方法としてはI-C分析方法が取られ、交換と省略の検査によつて Syntagma の構造が確認されている。Syntagma は NG とVG に分析され更に NG は D+Sに分析される。Sには何が挿入されるかは従来多くの研究がなされている。しかしどんな表現が der, ein の他にDに入れられ得るかは未だ研究されていない。交換検査によつて次の表現が冠詞の位置に入り得る事がわかる。単数に於ては、{ der, dieser, jener, jeder, ein, mein, kein, mancher, welcher, des Nachbarn, irgendein, } Baum blüht. このうち des Nachbarn は冠詞の位置に来ない。即ち Des Nachbar Baum は核グループ(KG) Baum と下部グループ(NG) des Nachbarn の複合体である。従つて冠詞の Form-klasse とは見なされ得ない。welcher はそれが疑問文に現われるという特殊性から取り除かれる。複数に於ては次の形式が die の代わりとなり得る。{ die, o, diese, jene, manche, alle, meine, keine, einige, irgendwelche, mehrer, viele, wenige, drei (vier, ...) , sämtliche } Baume blühen. この中で wenige, viele, drei (数詞) はそれらが形容詞の位置に来るといふ理由で排除される。さてこのようにして冠詞の Formklasse は非常に拡大され上に述べたような der, ein と置換し得るあらゆる他の形式を含んでいる。さてこゝで彼が何を意図しようとしているかを明らかにする為に彼の得た結論を図示しよう。

	Gliederung	Vielheit	abgrenzende Gesamtheit	Situations- bezogenheit	einschließende Gesamtheit	Distribution	Zugehörigkeit	Identität	Bezug auf Nahes
jeder	α	β	c	δ	e	f	η	θ	l
dieser	α	β	c	d	e	ζ	η	h	i
jener	α	β	c	d	e	ζ	η	h	l
possessivum	α	β	c	d	e	ζ	ξ	θ	l
alle(r)	α	β	c	δ	e	ζ	η	θ	l
der	α	β	c	δ	e	ζ	η	θ	l
o	α	β	f	δ	e	ζ	η	θ	l
ein	a	β	γ	δ	e	ζ	η	θ	I
mehrer	a	b	c	d	E	ζ	η	θ	I
einige(r)	α	β	c	d	E	ζ	η	θ	I
irgendw.	α	β	c	δ	E	ζ	η	H	I
irgende.	a	B	c	δ	E	ζ	η	H	I
mancher	a	b	c	δ	E	f	η	h	I

小文字 a, b……は冠詞形式がそれらの a, b で表はされる意味を全体的意味として持つ、即ちその冠詞形式は如何なる場合でもその意味を表示しているという事を示す。例えば ein の全体的意味は a (分節性) だけであるが、これは ein が使われる場合には、そこには常に分節性が表示されているという事を示す。

大文字 A, B……は冠詞形式がそれらの A, B, で表わされる意味を如何なる場合でも持つていない事を示す。例えば mancher は総称という事に関しては C, E であるが、これは mancher が使われる時には常に総称性が閉め出されているという事を意味する。ギリシア文字 α , β はその項目の意味がその冠詞形式にとつては無関心 indifferent である事を示す。即ちある場合にはその意味が表わされるが、或る場合にはその意味は表はされない事を示す。例えば ein の総称性がそうである。

この図表は冠詞形式の体系に於ける Symmetrie を示している。O 形式が対称軸となる。O 形式の上側には圧倒的に肯定的な特徴を多く持つた形式が見出され、下側には否定的な特徴を持つた形式が見出される。肯定面に於ては、jeder が最も特徴が多く、der が最も特徴が少い。否定面に於ては mancher が最も特徴が多く、ein が最も特徴が少い。これまで専ら冠詞として見なされて来た三つの形式、der, ein, O 形式は最も特徴が少い形式なのである。その三つの形式は他の三つの形式の意味を場面、場面により色々と自分の中に取り入れるのである。

では ein の特徴はどのように記述されるであろうか。それを次に述べて見よう。

全体的意味は分節性という事にあり、他の特徴に関しては無関心である。

1. 分節性 Gliederung: 単数の einiger と irgendwelcher は大部分の場合、ein と置換し得ない。〔註 - einig の単数は抽象名詞にしか付かず、そしてそれは「少しの」を意味する。複数形は普通名詞に付くが、その場合は「二、三の」を意味する。z. B. ich habe einige Erfahrung/einige Bücher.〕こゝでは a: A (分節性: 非分節性) の対立が問題となつている。即ち ein は常に分節性 a を示し einiger と irgendwelcher は単数に於ては常に非分節性 A を示す。(註 1)
2. 多数性 Vielheit 註 1 に於いて述べた単数の特徴 α , β はそのまま、ein にも当てはまる。即ち β (多数性: 非多数性) という対立に於ては ein は無関心であり β で表わされる。
3. 限定された総称 abgrenzende (=absolute) Gesamtheit. ein が総称性を持つている事は der, O 形式と ein が置換されうるといふ事から証明さ

れる。 例えば

ein Mensch kann sprechen
der Mensch "
die Menschen können sprechen.

更にこの総称を表はす ein は jeder, aller と置換可能である。(註2)

ein は irgendein と比較的よく置換され得る。しかし ein が der, jeder, aller と置換され得る場合には決して irgendein と ein は置換されない。

ein Schraubenziehr war gefunden worden.
irgendein Schraubenzieher
er gehört nie einer / irgendeiner Schule oder
Richtung an.

上記の例文 ein Mensch kann sprechen に於ては irgend-ein は置換され得ない。こゝでは C : C (総称性 : 非総称性) の対立が問題となつている。即ち irgendein の特徴は非総称性なのである。故に ein は総称性という点に関しては無関心、である。さてこの限定された総称というのは冠詞論に於いてしばしば問題となる点であるが著者は次のように述べている。「冠詞のいわゆる一般化する、乃至は理想化する機能に就ては従来多くの矛盾し、混乱した叙述がなされて来た。der と ein の交差する領域、即ち der と ein によつて表現され得る意味領域が問題なのであるという事は全く見過されてきたか或は中途半端にしか扱われてこなかつた。Ingelid Dal は次のように言つてゐる。『定冠詞は一般化する冠詞として種族を表示する。der Mensch ist sterblich. 又不定冠詞も一般化するのに用いられる。』二つの意味がこの領域では一致している事から、何か結論を引き出す代わりに彼女は次のように言つてゐるだけである、即ち『定冠詞と不定冠詞は一般化する意味に於てはしばしば非常に近い関係に立つ。上述の例はたゞちに ein Mensch ist sterblich という事が出来る』そしてこの命題を支える例として彼女は ein Mensch (oder der Mensch) ist ein vielfach bedrohtes Wesen. という例をもち出しているが、この例はいわゆる一般化する領域に於て der と ein はしばしば近い関係に立つのみならず一致している事を示している。従来の冠詞論に於ては der が定一、ein が不定冠詞と名付けられる故に、人は言語的事実に立脚する代りに一方の Bestimmtheit と他方の Unbestimmtheit を指摘しようと

努める。更に「一般化する冠詞」に「個別化する冠詞」を対立させ結局総称に於ては4つの意味領域が存在すると考えられて来た。即ち

限定	}	}	一般化
非限定			個別化

実際には三つの領域があるにすぎない。

① 一般化する領域—der と ein は一致する。

② 二つの全く異つた個別化する領域

4 場と関係している Situationsbezogenheit. er nahm das Notizbuch und den Bleistift zu Hand. <彼はノートと鉛筆を手を取つた>。この例では存在物の総体の代りにある限定された場に於ける総体が考えられている。(vgl. Das Gold ist ein Edelmetall 金は貴金属である), 即ちノート, 鉛筆という概念の全範囲が表示されているのではなくて, 当該の場に於てノート, 鉛筆に関して存在している一切のものを表示している。ある一定の状況に於て存在しているものの総体これを「場に関係づけられた, 特徴と呼びdで表わす。さて ein が総体を表現し得るのは常にD(場に関係づけられていない場合)の時のみである。例えば ein Hund und eine Katze sind Haustiere. しかしながら der は der Tisch ist ein Möbelstück の例で明らかなようにDとbを持ち得る故に der は d : Dの対立に関しては無関心なのである。ein がdの時それはそれが総体を表わしていない時である。例えば ein Schrauben-zieher war gefunden worden

5 包括的な総称。

tauchen wie Meteore aus dem Dunkel <暗闇から流星のように現われる, übertraf……dem General, der die Buren bekämpfte <ブーア人と戦つた将軍に出喰わした>こゝで der によつて表わされているものは境界づけられた総体である。即ち das Dunkel は das Licht に対して境界づけられており, die Buren の die は他の民族に対してある民族の境界づけを表示している。しかしながらその場合境界づけられた領域内の一切のものが捉えられているのではない。将軍は民族としての die Buren と戦つたのであり, それに所属する全ての人と戦つたわけではない。das Dunkel に就ても同様である。故に der が表示する総体は必ずしも包摂的な総体ではない。勿論 der が包摂的な総体を表示する場合がある。例えば die Bäume sind Pflanzen. のように。der はかくして包摂的な総体に関しては無関心である。

それとは対照的に *alle* は常に包摂的な総体、即ち境界づけられた領域内の全てのものを一つもあますことなく捉える特徴を持つ。この特徴を *e* と名付ける。*der* は *E* である。特徴 *e* が表示されている場合にのみ *alle* は *der* と置換が可能となる、この逆は成り立たない。さて *ein* はこの点では *der* と全く同じである。即ち無関心 *e* である。〔註3〕

6. 分配 Distribution.

ある集合体の個人の員員に関する事象を分配と言う。これは *jeder* の全体的特徴であり *f* で表わされる。Die nasse Herbstkälte dräng durch die Decken / alle Decken / sämtliche Decken / jede Decken. この場合には *jeder* は *der*, *alle* と置換可能なのであるが、この特徴 *f* が閉め出されている時は *jeder* は *der*, *alle* と置換され得ない。例えば die Jungen und Mädchen / alle Jungen und Mädchen / Jungen und Mädchen / bildeten einen Kreis.

述語の bildeten einen Kreis は総体としての Jungen und Mädchen に関係し、個々の Jungen, Mädchen には関係していない。一方 *jede* は総体の個々の員員への関係を要請するのである。*ein* に於ては特徴 *e* は同時に *f* を包み込む。そこで *ein* は *alle* との置換に於て同時に *jeder* との置換が可能となる。〔註4〕

7. 所属 Zugehörigkeit. g.

所有形容詞の全特徴である。即ち所有形容詞は実詞によつて表現された概念を話し手、聞き手、或は場に与えられた対象に付属させる。この点に関して *der* は無関心 *e* である。

der が *g* の場合: Indes ihr schwatzt, ist das / unser / Geschäft……fertig < あなた方がしやべつている間に仕事は終つた >。*der* が *G* の場合 der Regen wurde immer staerker. この点に関しては *ein* も同様である *ein* Schraubenzieher war gefunden worden.

8. 同一性 Identität

L. und W. haben ihren eigenen Geschichtsunterricht. Der Unterricht beginnt bei……< LとWはそれぞれ自分自身の歴史の授業を受持っている。この授業は……で始まる >。dieser と jener は一所有形容詞と同様に - *dae* が、場に関係している場合にのみ *der* と置換可能である。それ故に「場に関係づけられている」*d* が *dieser* と *jener* の特徴である。それらは絶対的総称を表示することはできない。しかしながら *dieser* と *jener* は「場に関係づけられた総体」が

指示されているあらゆる場合に於て *der* の代りとなり得るのではない。(1) *Von weitem sah man eine Kirche. Die Kirche stand auf einer Anhöhe* < 遠くから一軒の教会が見える, その教会はある丘の上に立っていた >。

(2) *Es war ein hübsche Dorf. Die Kirche stand einer Anhöhe.* 両方の側に於いてある一定の場に関係している総体が表現されている。

即わち考えられ得る他の一切の教会を排除する, ある場に関係づけられている教会という概念の総体が考えられている。(1)に於ては *dieser* と *jener* は *der* の代りとなり得るが, (2)に於ては代りとなり得ない。*der* の場の関係範囲は *dieser, jener* のそれより広い。(2)に於ては村という概念の言及が教会を境界づけるのである。例えば「その教会は村に一軒しかない」という状況が。村が多くの教会を持つている時には, この文脈では *die Kirche* は使われぬ, もしそれが既に述べてあり, それが問題となつてゐる唯一の教会となるのでなければ。(1)の場合がそうなのである。即わちこの教会は既に述べられた教会に関係しているのである。こゝでは同一性の確認という付随的命題が存在している。そしてそれが *dieser* と *jener* が使われる条件なのである。それ故に *dieser* と *jener* は(2)に於ては排除されるのである。*dieser* と *jener* の特徴は h である。*der* は (1) n , (2) H であるから無関心 θ である。この同一性は, 既に述べられたものを再び取り挙げるだけではなくて, 言語場に於て与えられているものへの指摘によつても生まれる。*der Baum / dieser, jener Baum ist hoch.*

ein はこの点に於ても *der* と同様無関心 θ である。例えば *auf der straÙe spielten Kinder, ein Kind lief davon* < 子供達が道路上で遊んでいた, 一人の子供が走り出ていつた > に於て *ein Kind* は既に知られた既に述べられた「子供」というクラスに関係している。

9. 近いものに関係している。Bezug auf Nahes.

dieser と *jener* は常には置換可能ではない。*jener* の意味領域は *dieser* のそれよりは広い。*jener* は近いもの乃至は直前に述べられているものと, 遠きもの乃至は直前に述べられていないものさえも指示する事ができる。それ故に *dieser* は特徴 i (Bezug auf Nahes) を持つ。それに対して *jener* も *der* も無関心 θ である。このように置換検査によつて *Heinz Vater* は冠詞形式の意味領域を調べて行き, 最後に次のような図式を得ている。

einige ABCdFh Nullform		einige abCdFh mehrere Nullform		einige mehrere mancher Nullform		ein aBCdFh (Nullform)	
einige ABCdFH Nullform irgend- welcher		einige abCdFH irgendwelch mehrere Nullform		abCdFH		ein aBCdFH irgendein (Nullform)	
ABCDFH irgend- welch Nullform		abCDFH irgendwelch Nullform		abCdFh mancher Nullform		aBCDFH ein irgendein (Nullform)	
der Nullform ABCDEFHG	der alle Nullform ABcDeFGH	der alle Nullform abcDeFGH	der, alle, jeder, ein Nullform abcDefGH	der ein abcDEFHG Nullform			
der Poss (Nullform) ABcdeFgH	der(Nullf) Poss alle ABcdeFgH	der, Poss alle (Null) abcdeFgH	der, jeder Poss (Null) alle abcdefgh	der, Poss (Null) abcdeFgH	der, Poss (Null) aBcdeFgH		
der Poss dieser jener (Null) ABcdeFgH	der (Null) alle Poss dieser jener ABcdeFgH	der alle (Null) Poss jener dieser abcdeFgH	der jener alle Poss jeder dieser abcdefgh	der Poss(Null) dieser jener abcdeFgH	der Poss dieser jener (Null) aBcdeFgH		
der dieser jener (Null) ABcdeFgH	der dieser jener alle (Null) ABcdeFgH	der dieser jener alle (Null) abcdeFgH	der dieser jener alle (Null) jeder abcdefgh	der dieser jener (Null) abcdeFgH	der dieser jener (Null) aBcdeFgH		
der (Null) ABcdeFgH	der alle (Null) ABcdeFgH	der alle (Null) abcdeFgH	der alle jeder (Null) abcdefGH	der (Null) abcdeFgH	der (Null) aBcdeFgH		

註1 一般に複数はこゝで述べた①分節性という特徴の他にもう一つ②多数性という特徴を持つ。

そして②は①を前提としている。例えば Gold<金>, Ruhe<休息>, Geduld<忍耐>, Gehen が複数形を持たないのは、それらは全て一つ一つの個体に分けることのできないかたまりを示すからである。単数はこの特徴に関しては indifferent である。即ち単数の中には分節されたものと、分節されないものが見出されるから。例えば Dort ist ein Haus. という場合の Haus は前者であり、Gold, Ruhe 等は後者に属する。②に就ても同様に indifferent である。一般に単数は単一性を表わすと考えられているが Ein Tisch ist ein Möbelstück 「机は家具である」という陳述に於て Tisch は多数性を示している。故に複数は α , β という特徴を持つのに對し単数は α , β である。

註2 ein / der / jeder Baum ist eine Pflanze. die Bäume / Bäume / alle Bäume sind Pflanzen. 即ち der, ein, jeder の間の置換は単数に於いて可能であり、die, o, alle の置換は複数に於て可能である。英語に於ても総称の表わし方には 1. o 形式 + 単数 Man is mortal, nthe + 単数 The horse is a noble animal $a(n)$ + 単数 A horse is a noble animal. 40 + 複数 Horses are noble animals. .the + 複数形 The English are a notion of shop keepers. の 5 形式の他に every や any や all + 複数形に依る総称形式がある。一色マサ子「冠詞」S. 16。

註3 ein Hund und eine Katze / Hund und Katze / der Hund und die Katze / alle Hunde und alle Katze sind Haustiere. ein と all が置換し得ない場合。ein Bündel kann sich so verengen,.....Dann haben wir einen Linienstrang / den Linienstrang.

註4 ein / der / jeder Gesamtbündel / alle Gesamtbündel kann sich also in Teilbündel zerlegen < Ka Ku かくして全束は部分束に分解され得る。>